

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

ありがとう 小鳥原小学校 休校式で131年の歴史に幕

児童数の減少が深刻化し、平成18年度で休校となる小鳥原小学校で3月25日、最後の卒業証書授与式と休校式、思い出を語る会が行われました。

小鳥原小学校は、明治5年の学制公布から3年後の明治8年、民家を借りて授業が行われたとの記録があり、児童教育に対する地域の熱意によって、いち早く義務教育の基礎がつけられたと伝えられています。以来131年に亘り、西城町の小鳥原と高尾の地に教育の灯をともし、1399人の卒業生を送り出してきました。



休校式では児童を代表して6年生の松尾里奈さんがお別れの言葉を述べ、最後に全員で校歌を歌いました。また、地元実行委員会主催の「思い出を語る会」が開催され、小鳥原小学校の歴史を記録したDVDが上映されました。

長年地域の生涯学習と文化活動の拠点でもあった小鳥原小学校は、学校関係者の努力と地域をあげての支援に支えられ、独自の歴史と伝統を築いてきました。とりわけ、小鳥原みどりの少年団と育成会による森林学習、森林活動、花壇づくり、美化活動、交通安全啓発などの活動は、全国的にも高く評価され、西城地域のまちづくりに大きく貢献してきました。



山内首藤家文書から日本の歴史を学ぶ 田園文化センター「郷土史講座」

「山内首藤家文書を読む」と題し、田園文化センターの武田祐三館長による「郷土史講座」が1月20日から3月3日まで、4回シリーズで開催されました。

当初の定員20人を大幅に上回る43人が受講。武田館長は山内首藤家文書を解説したり、スライドで写真を映したりしながら、当時の出来事や地域の歴史を紹介しました。

参加した高根義子さんは「専門的な話しが聞け、地域の歴史を学ぶ上でとても魅力的な講座だった」と喜んでいました。

熱心にメモをとる受講者

乾燥注意報発令中！有事に備える 庄原市消防団高野方面隊林野火災訓練

3月4日、高野町下門田アップルロードで、消防団高野方面隊下地区下分団が、庄原消防署高野出張所の協力により、林野火災の想定訓練を実施しました。

暖冬により、例年よりも早い時期から空気が乾燥しており、市内でも林野火災が数件発生する中、有事を想定したポンプ中継を主とした訓練となりました。発見通報により現場へ急行し、消防署ポンプ車から順次3支部のポンプへ中継送水し、火点にみためた発煙筒に向け放水を行いました。その後、中継送水における消防ポンプの的確な操作について、機関員講習を行い、ポンプ操作の習熟を図りました。

参加した若い団員は、「慌ててしまいホースの延長に手間取った。実際にはこの僅かな時間のロスにより延焼し、初期消火ができなくなる事を痛感した」と話していました。



火点に向け放水

可憐な花で里山が賑わう 春へといざなう「節分草」公開

旧暦の節分の頃に咲くことから名付けられた節分草が、今年も総領町の自生地で可憐な花を咲かせました。

唯一南向きにある自生地の節分草が開花する2月中旬から約1か月間、7カ所の自生地で公開されました。「今年も来ましたが来年も来ます」と言われる方も多く、遠くは京都府、長崎県など県外からも観光客が訪れ、可憐な花が群生する様子を鑑賞したり、写真を撮ったりして、春を待つ里山が賑わいました。

公開期間中は、毎日、NPO法人節分草保存会のメンバーや節分草ボランティアガイド「花守り」が節分草の説明や公開地の開花状況を案内し、地域の方が出店されたバザーや、毎週土・日曜日には節分草に関する各種教室も好評でした。



ボランティアガイドが節分草を説明



学生の調査・研究を地域振興に 県立広島大学が公開卒論発表会

卒業論文を大学内だけでなく、広く市民に向けて発表し、地域課題の解決に貢献しようと、県立広島大学の生物資源管理学科の公開卒論発表会が2月27日、J A庄原会議室で行われました。

学科内で選抜された10人は、庄原市をはじめ県北地域で調査研究したデータを基に作成した卒業論文を発表し、発表者以外の学生もポスターで研究の成果を展示しました。

参加した地域住民による審査の結果、「品揃えを中心とした農産物直売所の現状と課題」と題して、午前の買い物客は品目数を重視し、午後の買い物客は数量を重視していると調査結果を発表した勝又のぞみさんに最優秀賞が贈られました。

審査に参加した(株)庄原市農林振興公社の矢吹正直本部長は「自ら実験をしたり、よく調査・研究をしたり、レベルの高い卒業論文だった。これからは学生の力を借りて、地域振興を図りたい」と話していました。



研究成果をスクリーンに映しながら発表

見て・聞いて・触れて 木質バイオマスを知る しょうばらバイオマスフォーラム



市やNPO法人森のバイオマス研究会では、多くの皆さんに木質バイオマスについての理解を深めてもらおうと3月3日、庄原市ふれあいセンターで「しょうばらバイオマスフォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、木質バイオマスの利活用・地域活性化に関する基調講演やパネルディスカッションが行われたほか、ペレットストーブの展示やウッドクラフト教室、薪で焼いたピザの販売なども。

会場には約250人が訪れ、木質バイオマスを見て、聞いて、触れて楽しむ一日となりました。



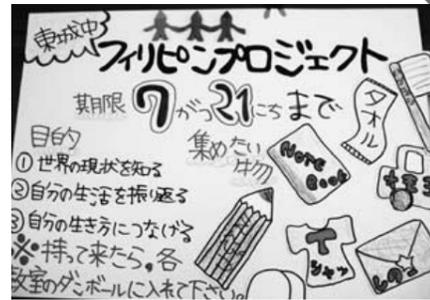
ペレットストーブの展示

フィリピンの子どもたちを支援 東城中学校がボランティア優秀賞

フィリピンのスラム街に暮らす子どもたちへ文具や衣服などを届ける支援をしてきた東城中学校が、第1回「SYDボランティア奨励賞」で優秀賞を受賞しました。

3年前に「ボランティア・アクションinフィリピン」に参加した上山晋平教諭が、フィリピンのストリートチルドレンなどについて道徳の授業を行ったことをきっかけに、全校でフィリピンの現状について学んだり、生徒会と学級委員会が中心となって学校や地域全体に支援物資の提供を呼びかけたりしています。平成18年度は、1100点以上の物資を届け、生徒会長がフィリピンに行き、現地の子どもたちと交流し、朝会や文化祭などで体験発表を行いました。

生徒会執行部は「この受賞を励みに、今後もこの活動を通して、見てきたこと、知ったこと、世界の現状を多くの人に伝えていきたい」と話していました。



赤ちゃん絵本との出会いを応援 西城公民館が“ブックスタート”

3月17日、西城図書館で第3回「ブックスタート」が開催されました。

「ブックスタート」とは、イギリスで始まった赤ちゃん絵本との出会いを応援する運動で、日本でも多くの自治体に広がっており、西城公民館では平成17年度から、西城で生まれた0歳児に絵本をプレゼントしています。

今回対象となったのは、平成18年4月から9月までに生まれた赤ちゃん7人。この日、西城地域で活動している絵本の読み聞かせグループ「お話し会ダンボ」によるお話し会が行われ、親子は絵本を読むことの楽しさを体験した後、一人一冊ずつ絵本のプレゼントを受け取りました。

対象者の一人麻田恵子さんは、「読書は子どもの心の成長に大きな影響があるといわれています。自分の声で本を読み聞かせてあげることで子どもと心のふれあいを深めていきたい」と話していました。



からだ自然にやさしい農業を学ぶ 「神の瀬工房」が講演会

からだ自然にやさしい農産物の生産・販売を目指そうと、高野の農業グループ「神の瀬工房」が2月25日、緑の村文化センターで農業講演会を開催しました。

化学肥料や農薬を使用せず、ボカシ肥で安心・安全な農産物の生産に取り組んでいるNPO法人百匠倶楽部理事の後藤清人さんは「確かな次世代農業を目指す“自然生態系耕土農業”への取り組み」と題し講演。地元生産者など約40人が参加しました。



後藤さんは自らの経験を基に、「ぼかし肥によって土中の微生物のバランスをとれば、安全でおいしく栄養分たっぷりの農作物が育つ」と、作物ごとに栽培方法を紹介し、生産者と意見交換しました。

昨年からは、ボカシ肥の使用を始めた「神の瀬工房」の代表中原健二さんは「ミニトマトなど糖度が高く市場での評価も高かった。今年は、さらに生産量を増やし、消費者の要望に応えたい」と話していました。



熱く語る後藤さん

地域住民が子どもたちとの 交流を楽しむ 比和保育所でひなまつり交流会

3月6日、比和保育所で地域住民と子どもたちとの「ひなまつり交流会」が開催されました。

これは、地域住民の皆さんに日ごろの子どもたちの様子など直接触れ合ってもらい、保育所の運営に理解を深めてもらおうと、定期的に開催される世代間交流事業の一つ。

交流会の会場には、子どもたちが一生懸命作ったかわいらしいひな人形が飾られ、楽しいゲームや出し物など、子どもたちも地域の皆さんも笑顔いっぱい、交流を深めました。

参加者は「初めて参加しましたが、子どもたちの生き生きした姿を見て感激した」「子どもたちから元気をたくさんもらうことができた」と笑顔で話し、比和保育所の藤川所長は「平成19年度も継続して交流事業をやっていくので多くの皆さんに参加していただきたい」と話していました。



笑顔いっぱい健康づくり 口和ソフトバレーボール大会



第4回口和ソフトバレーボール大会(体育協会口和支部主催)が2月25日、口和中学校体育館で開催されました。青年会や町内自治会など6チーム約70人が参加して、予選リーグを行い、決勝リーグへと熱戦を繰り広げました。

健康づくりや交流を目的に、初心者や久しぶりにスポーツをする人なども多く参加し、準備体操の時から「はーはー・ゼーゼー」と息を切らしながらも、「スポーツは楽しい」と、笑顔あふれる和やかな大会になりました。

体育協会口和支部は一年通してソフトボール・グラウンドゴルフ・駅伝・バレーボールと各種大会を運営し、口和地域の健康推進に取り組んでいます。スタッフは「来年度は参加者をさらに増やそう」と話していました。

(主な成績) 1位 SHANKS
2位 まんぼう
3位 宮内スイス村A

高校生の絵画と書道が50点 東城高校生徒作品展

3月1日から9日まで、東城支所1階ホールで東城高校による絵画と書道の作品展が開催されました。美術と書道を選択している1年生と、美術部・書道部員25人の作品を展示。若さあふれる50点の作品が、訪れる人を魅了しました。

絵画を出展した2年生の岡崎未来さんは「満足のいく作品にならなかったものもありますが、楽しんで作ることができました。将来は絵に係わる仕事がしたい」と話し、書を出展した1年生の須田修右くんは「偉人の書いた字を臨書することにより、その人の考え方や思想が少しでも理解でき、またその人に近づけるようになりたい。日々練習を重ね、集中力や追求心を高め素晴らしい作品と思えるものを書いていきたい」と話していました。

